



より一層の経営改善に努めていきます。

当院は、昭和23年3月江田町外三ヶ村組合立国民健康保険共済病院としてスタートし、令和4年3月に創立74年を迎えました。病院理念である、医療を通じて住民が安心して生活できる社会づくりに貢献することを目標に、公的医療機関としての役割と責務を果たし、公営企業としての効率性を高めるよう職員一丸となり努めています。



患者数などの状況

令和3年度の入院患者数はのべ14,680人で、前年度と比較し、1,637人の減少となり、病床利用率は44.2%となりました。外来患者数はのべ20,531人で、前年度と比較し1,383人の減少となりました。

また、夜間・休日の救急患者の受け入れ人数は918人でした。

なお、健康管理センターでの健診受診者延数は3,059人、居宅介護支援事業所のケアプラン作成件数は1,575件、訪問看護ステーションの利用者数は301人、延訪問回数は2,778回となっています。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の流行がいつまで続くか不透明な状況ですが、他の医療機関とも連携し、当院も自治体病院の役割を果たしていきます。また、今後も医師の確保と医療機能の回復に努めるとともに、医療サービスの向上のため、職員が一丸となって地域の医療機関として、住民の皆さんから信頼される公的医療機関を目指します。

■用語の説明

経常収支比率

経常的な経営活動に伴う収益から費用を差し引いたもの。この数値が100%を超える場合は経常黒字、100%未満であれば、経常赤字を示します。
(経常収益/経常費用)×100

医業収支比率

医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標。経常収支比率と同様にこの比率が100%以上であることが望ましい。
(医業収益/医業費用)×100

職員給与比率

病院の職員数などが適切か否かを判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営のポイントとなります。
(職員給与費/医業収益)×100

病床利用率

病院の施設が有効に活用されているかどうか判断する指標。病床利用率が恒常的に低い場合は、病床規模が適切か否かを検討する必要があります。
(年延入院患者数/年延病床数)×100

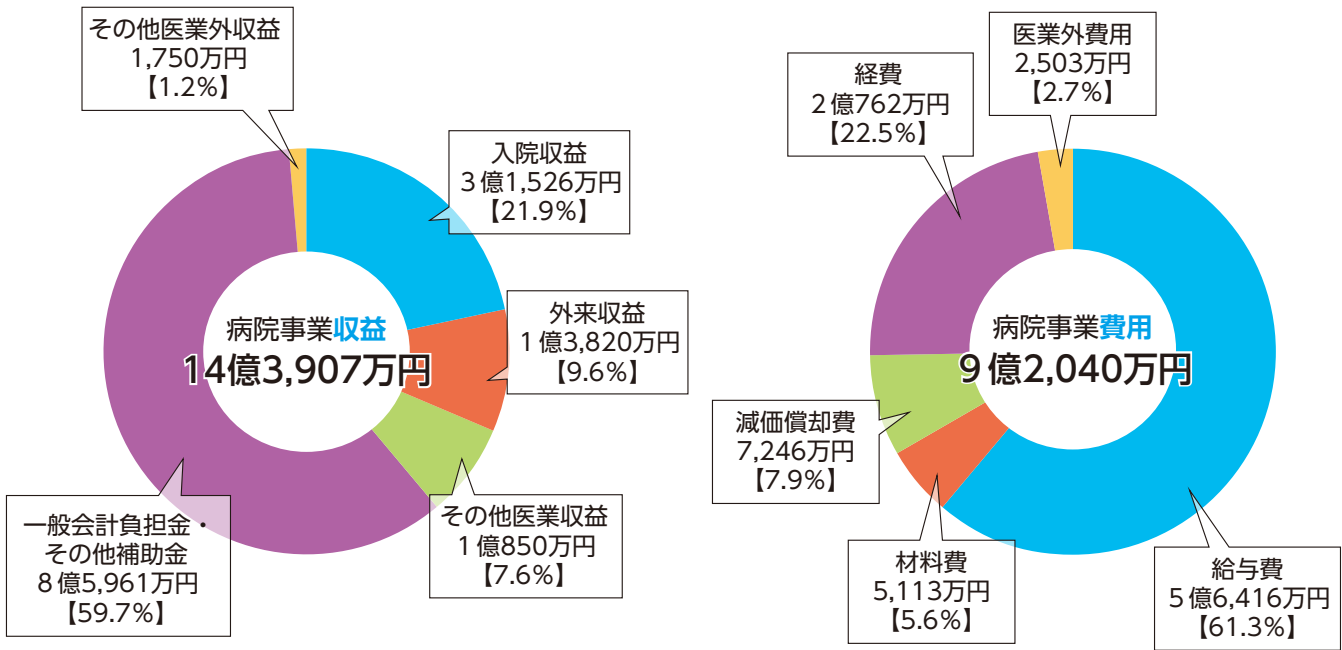
■令和2年度との比較

		令和2年度	令和3年度
患者数	入院	16,317人	14,680人
	外来	21,914人	20,531人
診療単価 (患者1人・1日当たり)	入院	21,870円	21,475円
	外来	6,344円	6,731円
病床利用率		49.1%	44.2%
平均在院日数		19日	19日

■改革プランの実績

項目	H27 年度 (実績)	H28 年度 (実績)	H29 年度 (実績)	H30 年度 (実績)	R1 年度 (実績)	R2 年度 (実績)	R3 年度 (実績)	目標値
経常収支 比率 (%)	91.6	98.5	96.5	99.7	103.8	109.2	156.4	100 以上
医業収支 比率 (%)	81.3	88.2	88.6	90.8	92.2	77.3	73.6	90 以上
職員給与 比率 (%)	78.2	71.2	73.1	71.1	69.8	79.2	85.7	69 以下
病床利用 率 (%)	66.9	71.7	57.3	52.4	57.8	49.1	44.2	83 以上

※項目は、経常収支比率、医業収支比率、職員給与比率、病床利用率を掲載
注) 目標値は、平成29年度から令和3年度までの「新公立病院改革プラン」に沿った目標値となっております。



令和3年度の病院事業は、令和2年度に引き続き発熱外来や新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れや、新型コロナウイルス感染症ワクチン接種業務など対応に追われた1年間でありました。特に新型コロナウイルス感染症患者増加に伴い、医療従事者にとって緊迫した対応を求められる場面も幾度となくありました。

病院の利用状況をみると、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、受療行動の変化や、季節性インフルエンザが流行しないなどのことから推察できる個人の意識向上による急性疾患の減少により、外来患者数は減少し、入院についても感染症病床の確保をすることで患者受け入れが抑制されたことにより入院患者数も減少しました。

収益的収支では、病院事業収入が143,907万円となり、内訳として入院収益31,526万円、外来収益13,820万円、一般会計繰入金および補助金85,961万円、その他医業収益10,850万円、医業外収益1750万円となりました。

一方、病院事業費用は92,040万円となり、内訳として給与費56,416万円、材料費5,113万円、減価償却費7,246万円、経費20,762万円、医業外費用2,503万円となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い入院・外来収益がともに減少しましたが、新型コロナウイルス感染症対策事業補助金をはじめとする補助金の活用により、病院経営への影響を最小限に抑えることができました。収益的収支では純利益51,867千円となりました。

令和3年度の概況